

## ■■最強の投資手法「スーパーボリンジャー」によるシンプルトレード■■

ドルストレート通貨ペア(ドル円、ユーロドル、豪ドルドル、ポンドドル)、クロス円通貨ペア(ユーロ円、豪ドル円、ポンド円)に関して、週足、日足、4時間足、1時間足分析を掲載します。分析は、全て、先週末 11 月 15 日の NY 時間午後 5 時時点での判断です。

<<<主要 7 通貨相場週足、日足、4 時間足、1 時間足分析>>>

「週足」はポジショントレードの大局観把握、

「日足」はスイングトレードの大局観把握、

「4 時間足」はゆったりデイトレードの大局観把握、

「1 時間足」はデイトレードの大局観把握に特に有効です。

尚、特に、1 時間足は、刻々と変化するため、その都度の判断が必要です。

また、売買判断は、トレードスタイル別の大局観より下位の時間軸チャートにて判断することをお勧めします。

例えば、ポジショントレードであれば、主に日足での売買判断、

スイングトレードであれば、主に 4 時間足での売買判断、

ゆったりデイトレードであれば、主に 1 時間足での売買判断、

デイトレードであれば、主に 5 分足での売買判断となります。

## ■ドル円

<<週足>>

本格的な調整反騰局面。

終値がセンターラインを上回って以降、+2σラインを目指す本格的な調整反騰局面入りしていると判断。

トレード戦略としては、目先、買い戦略が有効な場面ではあるが、今後、遅行スパンが陽転しないかぎり、+1σラインから+2σラインのゾーンは、一旦は戻り売りチャンスと読む。尚、今後、遅行スパンが陽転し、終値が+2σラインを上回り、バンド幅が拡大傾向に転じる場合は、本格上昇トレンド局面入りする点には念のため注意しておきたい。

<<日足>>

緩やかな上昇トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを上回るかぎり緩やかな上昇トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを下回ると $-2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反落局面入りする。トレード戦略としては、緩やかな上昇トレンドの特徴がセンターラインと $+2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと上昇するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は押し目買い戦略が有効となり、 $+2\sigma$ ライン近辺では戻り売り戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを下回ると、本格的な調整反落局面入りする点には注意しておきたい。

#### <<4 時間足>>

調整反落局面の最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、終値が $-1\sigma$ ラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、目先は買い戦略が推奨される。

#### <<1 時間足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が $-2\sigma$ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

## ■ユーロドル

### <<週足>>

本格下落トレンド局面入りの兆候。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が $-2\sigma$ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

### <<日足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が $-2\sigma$ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

### <<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと $-2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となり、 $-2\sigma$ ライン近辺では押し目買い戦略が有効となりやすい。一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整反騰局面入りする点には注意しておきたい。

<<1 時間足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1 $\sigma$ ラインから+2 $\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、-1 $\sigma$ ラインから-2 $\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が+2 $\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、-2 $\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2 $\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

## ■豪ドル/ドル

<<週足>>

レンジ局面の下限である-2 $\sigma$ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面継続するかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が-2 $\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、-2 $\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、今後、終値が-1 $\sigma$ ラインを上回ると改めてレンジ局面継続の可能性が高まるため、目先は買い戦略が推奨される。

<<日足>>

本格上昇トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陽転している、(2)終値が+1 $\sigma$ を上回り続けている、

(3) バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と+1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が+1σラインを上回るかぎり本格上昇トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを下回ると調整反落局面入りする。

トレード戦略としては、終値が+1σラインを上回り続けるかぎり、買いポジションキープ

する一方で、終値が同ラインを下回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反落局面入りを確認後は、短期的に売り戦略も有効な場面となる。

#### <<4 時間足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1) 遅行スパンが陰転している、(2) 初動で終値が-2σを下回ったこと、

(3) バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と-1σラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が-1σラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が-1σラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープ

する一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

#### <<1 時間足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、+1σラインから+2σラインにかけて

の価格帯は戻り売りゾーン、-1σラインから-2σラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、

2) 終値が+2σラインの上方にて引ける、もしくは、-2σラインの下方にて引ける、

3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、

4) 遅行スパンがローソク足のみならず、+-2σラインをブレイクすること、

等々。特に、(2)の条件がクリアされるのが望ましい。

## ■ポンドドル

### <<週足>>

調整反落局面の最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、終値が $-1\sigma$ ラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、

目先は買い戦略が推奨される。

### <<日足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)終値が $-1\sigma$ を下回り続けている、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

### <<4時間足>>

緩やかな下落トレンド局面。

終値とセンターラインとの位置関係を注視したい場面。

すなわち、終値がセンターラインを下回るかぎり緩やかな下落トレンド局面継続となる

一方、終値が同ラインを上回ると $+2\sigma$ ラインを目指す本格的な調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、緩やかな下落トレンドの特徴がセンターラインと $-2\sigma$ ラインの間を往来しながらゆっくりと下落するところから、センターラインに接近する場面は、一旦は戻り売り戦略が有効となり、 $-2\sigma$ ライン近辺では押し目買い戦略が有効となりやすい。

一方、終値がセンターラインを上回ると、本格的な調整反騰局面入りする点には注意しておきたい。

#### <<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が $-2\sigma$ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

### ■ユーロ円

#### <<週足>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンが陰転しつつもローソク足に絡んでいること、終値が $-2\sigma$ ラインを下回っていないこと、バンド幅の拡大傾向が鮮明でないことなど。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、下落バイアスを伴っているため、特に、センターライン以上 $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯での戻り売り戦略がより有効と判断。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

#### <<日足>>

調整反落局面の最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、終値が $-1\sigma$ ラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、

目先は買い戦略が推奨される。

#### <<4 時間足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1) 遅行スパンが陰転している、(2) 初動で終値が $-2\sigma$ を下回ったこと、(3) バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

#### <<1 時間足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1) 遅行スパンが陰転している、(2) 初動で終値が $-2\sigma$ を下回ったこと、(3) バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。



## ■豪ドル円

### <<週足>>

下落バイアスを伴ったレンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンが陰転しつつもローソク足に絡んでいること、終値が $-2\sigma$ ラインを下回っていないこと、バンド幅の拡大傾向が鮮明でないことなど。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面だが、下落バイアスを伴っているため、特に、センターライン以上 $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯での戻り売り戦略がより有効と判断。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $+2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアされることが望ましい。

### <<日足>>

レンジ局面の下限である $-2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面継続するかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、今後、終値が $-1\sigma$ ラインを上回ると改めてレンジ局面継続の可能性が高まるため、目先は買い戦略が推奨される。

### <<4時間足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が $-2\sigma$ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、

終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

#### <<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が $-2\sigma$ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

### ■ポンド円

#### <<週足>>

レンジ局面。

判断根拠は、遅行スパンがローソク足に絡んでいることや、バンド幅が収束傾向であること。

目先、カウンタートレーディングを行うか、相場の放れを待ってトレンドに乗りたい場面。

カウンタートレーディングの基本戦略としては、 $+1\sigma$ ラインから $+2\sigma$ ラインにかけての価格帯は戻り売りゾーン、 $-1\sigma$ ラインから $-2\sigma$ ラインにかけての価格帯は押し目買いゾーンとなる。

尚、トレンド発生の際の「相場の放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から上放れる(陽転する)、もしくは、下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $+2\sigma$ ラインの上方にて引ける、もしくは、 $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクspansion」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $\pm 2\sigma$ ラインをブレイクすること、等々。特に、(2)の条件がクリアーされることが望ましい。

### <<日足>>

調整反落局面の最終ターゲットである $-2\sigma$ ラインに到達。

今後、本格下落トレンド局面入りするか、レンジ局面入りするかの瀬戸際に位置。

尚、本格下落トレンド局面発生の際の「相場の下放れ」の条件は、

- 1) 遅行スパンがローソク足から下放れる(陰転する)、
- 2) 終値が $-2\sigma$ ラインの下方にて引ける、
- 3) バンド幅が拡大傾向に転じる(「エクспанション」と言う)、
- 4) 遅行スパンがローソク足のみならず、 $-2\sigma$ ラインをブレイクする、等々。

上記の条件が整えば、売りエントリーが推奨される。

一方、終値が $-1\sigma$ ラインを上回るとレンジ局面入りする可能性が高まるため、

目先は買い戦略が推奨される。

### <<4時間足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が $-2\sigma$ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

### <<1時間足>>

本格下落トレンド局面。

判断根拠は、(1)遅行スパンが陰転している、(2)初動で終値が $-2\sigma$ を下回ったこと、(3)バンド幅が拡大傾向となっていることなど。

今後は、終値と $-1\sigma$ ラインとの位置関係を注視したい局面。

すなわち、終値が $-1\sigma$ ラインを下回るかぎり本格下落トレンド局面継続となる一方、終値が同ラインを上回ると調整反騰局面入りする。

トレード戦略としては、終値が $-1\sigma$ ラインを下回り続けるかぎり、売りポジションキープする一方で、終値が同ラインを上回ると、一旦手仕舞いを推奨。

そして、調整反騰局面入りを確認後は、短期的に買い戦略も有効な場面となる。

以上です。